

マツムシソウ自生地見学会参加報告

NPO 法人日本ビオトープ協会 丹野夕輝 ((株)エコリス)

日時： 2017年10月3日(火)

場所： 岩手県金ヶ崎町

概要：

この見学会は、岩手県南広域振興局保健福祉環境部(藤尾修部長)主催で、岩手県金ヶ崎町の千貫石地区生物多様性支援隊が行っているマツムシソウの保全状況を、関係者で現地を確認し、さらに知見を共有することを目的に開催されたものです。

マツムシソウは草原などに生育する越年草で、岩手県内の自生地はこの場所だけと言われており、岩手県版レッドデータのAランクに指定されています。手岩手県以外でも30の都府県の県版レッドデータに掲載されている、希少な植物です。

参加者数は岩手県、金ヶ崎町、環境NPO、町内の企業等総勢で18名、日本ビオトープ協会からは吉田馨、丹野夕輝((株)エコリス)の2名が参加し、自生地と移植地を見学、さらに移植の手伝いを行いました。

見学先① マツムシソウ自生地



マツムシソウの自生地の説明



自生地で開花しているマツムシソウ

水田法面や水路土手の自生地を見学し、現地の実情について説明をお聞きしました。ススキが優占する法面に多くのマツムシソウが生育していました。当日はマツムシソウが満開で、青紫色の花を多数咲かせていました。

この自生地は主に草刈りで管理されていますが、近年は管理者の体力面から草刈りが難しくなっているようで、継続的な草刈りの実施が今後の課題とのことでした。

見学先② 千貫石公民館



マツムシソウの移植地



移植地で開花しているマツムシソウ

千貫石公民館の横の広場で播種されたマツムシソウを見学し、播種作業を体験しました。播種作業では、20 cm 四方ほどを鍬で浅く掘ったあと、数粒～数十粒の種子を播きました。

マツムシソウの発芽率は良いようで、昨年播種した箇所では沢山のロゼットもみられました。しかし、昨年開花した個体周辺では、新たな個体が見られなかったことから、移植先では再生産が行われておらず、今後の課題となりそうです。